

双葉西小だより

令和3年 2月19日 文責 学校長 平塚 克人



自己実現のモデルとして ～学校・保護者・地域の連携～

1月は行く、2月は逃げる、3月は去るとはよく言ったもので、早くも3学期半ばを経過しました。来月19日の卒業式まで瞬く間に、ちょうど1ヶ月になりました。全国的な傾向ですが、本校も今シーズンはインフルエンザが流行することなく、ここまで来ています。やはり、新型コロナウイルス感染症対策で、手洗い・うがいの徹底と生活の中でマスクをしていることが、インフルエンザに感染しないことにも効果があるのでしょうか。立春を過ぎたとはいえ、まだまだ寒いこの時期に、子供たちがほとんど欠席することなく、学習のまとめや卒業式に向けての取り組みが順調に行われることの教育的効果は計り知れないものがあります。子供たちにとりまして学習が分かることでの楽しさや満足感、安心感、成就感を得るには大切な時期です。また、進学を控えている6年生にとりましては小学校を巣立ち、新たな門出を迎えるには、これからが重要な1ヶ月になります。昨年度は残念ながら、3月が休校になってしまいましたので、これらの部分に時間をかけることができませんでした。ぜひ、子供たちには今年度の残された学校生活を、昨年度の分も併せて、来る春を楽しみにしながら過ごしてほしいと思います。

さて、突然先月の成人式の話を持ち出して恐縮ですが、新成人が、「大人としての責任を実感します。」「まだ成人という実感がわかりませんが、一つ一つ学んで社会のために役立ちたいです。」と、前向きに生きようとする意気込みが伝わってくる新成人のコメントをテレビで見たことが今も頭に残っています。本校の4年生も先週の授業参観では、二分の一成人式を行いました。子供たちにとって、新成人の年齢の二分の一に達することは、中学年から高学年へと進級することと重なり、若干ではありますが大人に近づいてきていることを実感させてくれます。そのことと同時に、自己実現に向けて考えるよい機会にもなります。

人間としての真の喜びややりがい、生きがいは、多くの成功や名声を手に入れる以上に、自らかけた何気ない一言や相手のために労を惜しむことなく尽くしたことが、結果として相手の幸せや喜びに結びつくことと考えます。そのことは、人間本来の生き方にかかわることと言えるのではないのでしょうか。その意味で、学童期における集団の中で育まれる人と人とのかかわりから体得する様々な喜怒哀楽や葛藤は、何物にも代え難い経験です。そこで、それぞれの発達段階で出会う様々な出来事を自らの成長に生かし、生きがいに結びつけるためには、自分が周りに人のために、何ができるかという積極的な視点を持つことが大切です。周りのために自分ができることを見出し、その実現のために自ら行動することが求められます。生涯に渡って獲得する多くの能力や豊かな心は、それを自分以外に役立てたいという生きがいにつながる「生きる力」の出発点であるように思います。

1人では生きていくことのできない人間にとって、人のために自分ができることや、挑戦したいことを広げていく学びや努力は、不可欠です。将来は、あの分野で活躍したい、あのような専門家になりたい等の夢や希望は決して個人の自己満足ではなく、周りのために、社会のために自分の力を高め発揮したいという、自己実現という生きがいそのものであると信じます。そのためにも、子供たちの一歩先を進む私たち大人は、どのような社会状況にありましても自己実現のよきモデルを身をもって示したいものです。

幸いにも本校では教員以外にも、地域の方々や保護者の皆様が、いくつもの授業の中で子供たちにかかわってくださっています。そのことで、子供たちのために力になってあげたいという支援して下さる皆様が、自己実現のよきモデルとして知らず知らずの間に、しかも自然な形で子供たちの中に溶けこんでいっているのではないのでしょうか。大変お忙しい中ではありますが、今後も、このような地域の方々や保護者の皆様の末永い支援を子供たちにいただけますことを願っています。

授業参観・学年部会へのご協力、ありがとうございました。

今年度、学校での子供たちの活躍を保護者の皆様にご覧頂きましたのは、9月に行われました運動会のみでした。感染症拡大防止のためとは言いましても、どのご家庭でも授業参観や西小まつりでの我が子の様子を直接、見たかったのではないのでしょうか。もし、例年通りに実施できていれば、そこでは、きっと家庭では見られない子供たちの張り切っている姿、頑張っている姿を見ることができたことでしょう。また、子供たちも親に見てもらえる喜びも大きかったと思います。しかし、保護者の皆様が授業参観のために教室に入って子供たちを取り囲むような状態を想像しますと、今年度は授業参観実施に踏み切ることができずにここまで来てしまいました。せめて年に1回は子供たちの学習活動をご覧頂きたいという思いから、2月の寒冷期に体育館での参観になってしまいましたことは、誠に申し訳ありませんでした。しかし、多くの保護者の皆様にご来校頂きましたことに心より感謝申し上げます。【双葉西小HPにて日々の子供たちの様子を見ることができます。ぜひ、ご覧ください。】

【1年】 ～元気はつらつと～

親子でのふれ合い、スライドと呼びかけ、お家の方への手紙、ダンスと盛りだくさんでした。家の中よりも頼もしく見えたのではないのでしょうか。親子で一緒に楽しむことができました。



【2年】 ～自信いっぱい～

「がんばってきたこと」「できるようになったこと」の発表、「お家の方への手紙」の披露、西小まつりの再現「ダンス：ゴリラッパンダ」と、どの子供たちも張り切って発表しました。



【3年】 ～正確に分か～

総合的な学習の時間にまとめた双葉地区の特色ある場所や施設、伝統文化について13のグループが保護者に説明しました。お母さんやお父さん方が真剣に耳を傾けてくださいました。



【4年】 ～感謝の気持ちをもって～

等身大の自分たちに囲まれながら二分の成人式を行いました。10年後の私についての作文発表、思い出のスライド、親子それぞれからの手紙と、見ていた私も心洗われる思いでした。



【5年】 ～1年間の様子をユニークに～

今年度、保護者が学校に足を運ぶ機会が少なかったため、学期ごとの日常・林間・運動会・西小まつり・児童会役員選挙を楽しい寸劇で披露したり、元気にダンスも披露しました。



【6年】 ～6年間の成長がひしひしと～

西小まつりの再現で、リズム感あふれるダンスと日本の伝統文化狂言の発表に続き、6年生1人ひとりの顔写真(1年生時と現在)のスライドショー、最後は親子での手紙交換を行いました。



最高のコンディションで、気持ちよく滑ることができたスキー教室

5日(金)に5・6年生が富士見高原スキー場に行ってきました。1日でかなりの上達が見られ、子供たちも達成感にあふれていました。



☆☆☆ お知らせ ☆☆☆

2月5日(金)から雨宮久仁子(あめみやくにこ)助教諭が3年1組の支援を中心に子供たちと共に学校生活を送っています。3月末までの短期間ではありますが、ご承知おきください。